

ガイドボランティア活動記録 (平成 17 年度)

山本昌生

当園では平成 13 年 3 月 24 日から大温室などの温室植物を中心としたガイドボランティアを導入した。現在 4 期生まで 60 名(平成 17 年 12 月現在)が活動中である。今回は前号(第 26 号)に続いて、その後の活動や進展について報告する。

導入の経緯については平成 13 年度栽培記録(第 23 号)に記している。16 年度から温室のガイドに追加して、屋外のガイドを担当するボランティアを導入した。平成 17 年 12 月現在のガイドボランティアは 60 名で 1 期生が 20 名、2 期生 9 名、3 期生 5 名、4 期生 26 名となっているが、家庭の都合や体調不良などにより活動休止中が若干名いる。

ガイド活動は定期ガイドとしてベゴニア温室、大温室、熱帯スイレン温室、フクシア温室、サボテン温室を毎週土曜日と日曜日、イベント時の祝日に実施している。屋外ガイドは花の進化園とロックガーデンを定期ガイドする他、季節に応じてサクラやバラ、ハナショウブ、アジサイなどを案内した。このほかに申込ガイドとして学校の自然体験学習や公民館、老人会などからの申込ガイドに対応している(表 1)。また、夜間開園時に夜の植物を案内する植物ナイトウォッチングを開催した。8 月、9 月、12 月に開催し、特に 8・9 月にはサガリバナやオオオニバス、ゲッカビジン、ヤコウボクなど夜に開花(香る)する植物やゴレンシ、アメリカネムなど夜に就眠運動する植物などをガイドし、アンケート結果からも非常に好評だったことが伺えた。また、夜間開園時のガイドだけでなく 2,500 本のキャンドルへの着火も手伝っていただいた。

昨年度から実施している樹木ウォッチングは 3 年目となり、毎月第 2 火曜日と第 4 土曜日の月 2 回として実施した。サクラやカエデなど園内の樹木を中心に解説し、常連の参加者が多く、講師も参加者も顔なじみが多くなったため、和やかに実施している(表 2)。少しずつ場所と講師が代わっているため、講師担当のボランティアは資料収集及び作成など準備の段階で、かなりの勉強になっている。

(社)日本植物園協会と環境省、BGCI(植物園自然保護国際機構)、(財)広島市動植物園・公園協会の主催による日本の絶滅危惧植物の現状と保護活動をパネルでまとめた巡回展「絶滅危惧植物展」が全国

の 7 植物園で開催された。この関連行事の一つとして、樹木ウォッチングをオニバスなど園内の絶滅危惧植物を案内する絶滅危惧植物観察会として実施した。マスコミにも事前に取り上げられ、多くの参加者があった(写真 1)。



写真 1. 絶滅危惧植物観察会

秋のグリーンフェアには、社会実験として電動スクータ体験会を催し、その受付や園内の見所案内、電動スクータのエスコート(植物をガイドしながら、安全にエスコートする)を行い、高齢者や足の不自由な方に配慮したガイドを行う経験ができた。

例会と研修について

主に 2 ヶ月に 1 回の例会時に講堂で研修を行っている。研修内容は、人にやさしい植物園を目指して、タウンモビリティ倶楽部会員から「公園における電動スクータの導入について」の受講や、植物公園の新たな魅力を入園者に伝えるための、大温室空中散歩(管理用の 2 階～3 階通路から植物を眺める)体験研修などを行った(写真 2、3)。

また、ボランティア同士の親睦を兼ねて、野外で広島市東区の広島県緑化センターの植物観察を行い、さらに秋には島根県の三瓶自然館に行き、ガイドボランティア同士の交流を持つとともに、館内の



写真 2. 電動スクータエスコート研修

表 1. 定期ガイド・不定期ガイド実績表

月	定期ガイド*1										申込ガイド*2		合 計
	温室				屋外								
	日数(日)	ベゴニア温室	大温室	フクシア温室	花の進化園	ロックガーデン	その他	小計	樹木 ウォッチング	計	件数	人数	
4～12月の小計*	77	2,506	3,854	2,748	1,434	980	775	3,189	621	12,918	51	5,604	18,522
1 月	8	213	265	227	15	49	0	769	65	834	0	0	834
2 月	8	377	833	452	183	90	0	1,935	54	1,989	3	65	2,054
3 月	8	342	423	356	100	132	8	1,361	60	1,421	2	96	1,517
平成16年度合計	101	3,438	5,375	3,783	1,732	1,251	783	7,254	800	17,162	56	5,765	22,927
4 月	9	768	1,003	579	358	149	45	2,902	86	2,988	5	272	3,260
5 月	12	862	1,361	808	643	696	320	4,690	70	4,760	4	208	4,968
6 月	8	272	383	340	85	78	102	1,260	60	1,320	4	73	1,393
7 月	10	143	173	117	47	43	30	553	65	618	2	40	658
8 月	8	183	324	156	81	64	18	826	63	889	1	35	924
9 月	8	176	365	283	97	33	40	994	83	1,077	0	0	1,077
11月	10	449	656	482	267	225	183	2,262	56	2,318	5	96	2,414
11月	9	499	616	500	298	186	146	2,245	58	2,303	4	177	2,480
12月	8	144	283	102	30	38	0	597	24	621	0	0	621
平成17年度小計	82	3,496	5,164	3,367	1,906	1,512	884	16,329	565	16,894	25	901	17,795

*平成16年度の4～12月は前号(栽培記録第25号)に記したので省略した。

*1定期ガイドは平成16年度までは土・日の昼間のみに実施したものとしたが、平成17年度の集計からは祝日・夜間開園も含めた。

*2申込ガイドは平成16年度までは春まつりと秋のグリーンフェアの土日以外と団体からの予約分としたが、対象とする人が異なるため、平成17年度から団体からの予約分のみ分けて、申込ガイドとした。

大温室は熱帯スイレン温室を、フクシア温室はサボテン温室を含む。樹木ウォッチングには園外実施分も含めた(表2・表5参照)。

表 2. 樹木ウォッチング実績表

開催日	観察テーマ・場所	参加者数	担当者
4月12日	サクラの観察	45	金山
4月23日	ヤエザクラ	38	一橋
5月10日	バラ園	35	一橋
5月28日	日本庭園コース (ヤマアジサイなど)	20	石原三輪
6月14日	香りの散歩道	20	今村
6月25日	アジサイ園	25	石原
7月12日	ヤマザクラコース(1)	33	池下
7月23日	夏の野草コース	15	斉藤
8月9日	芝生広場コース(1)	28	湯出原
8月27日	針葉樹コース(1)	15	橋谷
9月13日	ハギ園コース	28	金山
9月24日	絶滅危惧植物観察会	40	一橋
10月11日	どんぐりと里山コース	13	北本
10月22日	秋の野草コース	29	金山
11月8日	ヤマザクラコース(2)	20	山下
11月26日	カエデ園コース	20	坂本
12月13日	サザンカ	10	山下
12月24日	針葉樹コース(2)	14	坂本
合計		448	

表 3. ガイドボランティア研修一覧表

開催日	場 所	研 修 内 容 ()内は講師	参加者数
平成16年4～12月小計		(内容は広島市植物公園栽培記録第26号に掲載)	289
平成17年2月27日	植物公園講堂	タスマニアの植物探訪記(植物公園 濱谷修一)	40
平成16年度合計			329
4月23日	植物公園講堂	さくらについて(鈴峯女子短期大学 榎井秀雄教授)	39
5月27日	広島県緑化センター	センター内の植物観察(広島県森林インストラクター 武内一恵)、センターの概要(広島県緑化センター職員 福島正博)	28
6月19日	植物公園講堂	特別企画展「原爆に耐えた樹木たち」の解説と苦労話(植物公園 尾崎健司)、高木哲雄氏の「広島県植物誌(仮題)」について(植物公園 山本昌生)	33
8月28日	植物公園講堂	ベトナムの食物・植物食べある記(植物公園 寺谷明日香)、人にやさしい植物園～パークモビリティに参加して思うこと～(タウンモビリティ協会 久保田博)	37
9月24日	大温室	大温室キャットウォーク体験研修(植物公園 高井敦雄)	12
10月10日	三瓶自然館と北の原	三瓶自然館、埋没林の見学と北の原の植物観察、同館ボランティアとの交流	32
10月16日	植物公園講堂	大温室ふもやま話 ナメクジの駆除について(植物公園 高井敦雄)	28
10月23日	園内	電動スクーター体験研修(タウンモビリティ協会 会員)	13
12月17日	植物公園講堂	福岡市都市緑化フェア視察とモザイクカルチャーについて(植物公園 磯部実)	33
12月27日	大温室	6年ぶりに開花したタビビトノキ視察(植物公園 山本昌生)	18
平成17年4～12月小計			273

表 4. ガイドボランティア通信タイトル一覧表

号	タ イ ト ル	執筆者	発 行
20	「緑のプロムナードづくり」に参加しませんか	坂本俊弘	2月29日
21	ランシンボク(爛心木)・カイノキ(楷樹)	原田澄子	4月23日
22	バルサの花	原田澄子	6月19日
23	形原温泉・あじさい祭り	石原和枝	8月28日
24	キャットウォーク体験研修	藤井かおり	10月16日
25	平成17年度秋の園外研修 三瓶自然館と北の原の埋没林	松尾健司	12月17日

表 5. 園外樹木ウォッチング

開催日	場 所	参加者数	担当者
4月20日	江波山	3	湯出原
5月18日	宮島・腰組	15	金山
6月15日	二葉山	15	北本
7月20日	比治山	17	今村
8月17日	三滝寺	20	山下
9月21日	牛田山	15	若木
10月19日	黄金山	14	古本
11月16日	太田川	18	湯出原
合計		117	

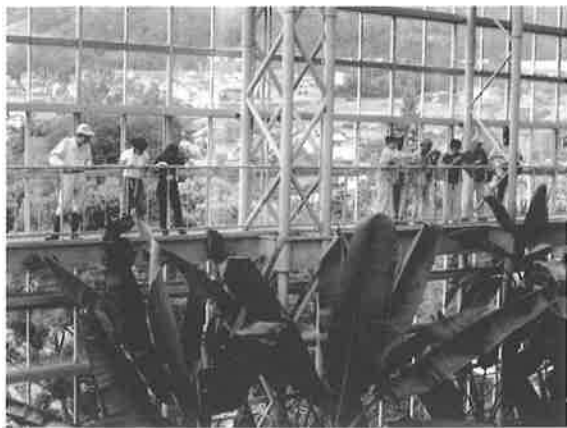


写真 3. 大温室空中散歩研修

見学を行い、三瓶山北の原のフィールドを三瓶自然館のボランティアに案内していただいた(表 3、写真 4)。他園のボランティアの方と意見交換及び案内をしていただき、考え方など参考になった。また、情報提供として例会ごとにガイドボランティア通信を発行した(表 4)。



写真 4. 広島県緑化センターの植物観察

植生調査について

今年度から佐伯郡湯来町が広島市と合併し、佐伯区に編入された。広島市の植生データ収集のため新たに湯来地区の植生調査に取り組んだ。職員だけでは調査及び標本の作製及び整理に十分な対応ができないため、ボランティアの募集をした。ガイドボランティアと友の会の管理ボランティアの中から 8 人が登録し、現地調査や標本の作製及び整理に従事し、成果を挙げた。今後も定期的な活動を行いたい。

自主活動について

春の植物公園まつりと秋のグリーンフェアにガイドボランティアコーナーを作り、入園者に活動をアピールした。また期間中は毎日温室及び屋外のガイドを行った。テントでは、竹馬体験、どんぐりの試食、どんぐりクラフト作り、手作り苔玉販売などを行い好評だった。

新しい企画として、子ども樹木博士に挑戦!を実施した。これは、植物を解説した後にテストを行い、その点数に応じた級を認定するもので、事前にボランティアたちが植物の種類や方法を計画し、実施した。親子 8 組 16 人が参加し、葉脈標本作りも当日行った。

昨年からは開始したサギソウの無菌播種及び苗の育成は、月に 2 回程度、無菌播種及び継代培養を行った。昨年順化した苗は、多くの花をつけ、8 月には入園者に見ていただいた。また、この花を人工授粉させ得られた種子を無菌播種して、次世代の苗を作成中である。

園外樹木ウォッチングも 16 年度同様に実施し、勉強会を兼ねた自主活動とし、植物公園内では見ることができない植物群落や貴重な植物を観察した(表 5)。

これまで、温室担当ガイドボランティアにより大温室の植物開花調査を毎週土曜日に行っていたが、約 3 年間実施し、データがほぼ収集できたため、一時休止して、とりまとめを行う。また屋外ガイドボランティアによる屋外植物の開花調査を新たにを行い、基礎的なデータを集めてガイド活動に活用することを計画している。平成 18 年 2 月から試験的にを行い、4 月からデータを取ることにしている。

活動を継続するためのルール作り

現在の活動を互いに迷惑をかけることなく維持するためには、書類の提出や締め切りなどのルールを守ってもらう必要がある。しかし、守られていない場合は一部の人に負担をしいることもあり、事務局としては不本意ながら、新しいルールを作る必要が生じてきた。

例えば、当番を割り当てる際には各自の都合の悪い日などをあらかじめ提出してもらうこととなっているが、ごく一部の人が守っていないため、割り当て表を作成するリーダーズ(事務局と共に、ボランティア活動の企画・運営などを行う役員)は電話で一人一人催促するなど多大な労力がかかっていた。また、従来は提出がなかった場合は、当番日を自動的に割り当てていたが、本人の思いと異なるため欠席する場合も多くあった。そのため、当番表を提出しない場合は割り当てをしないことと 2 回続けて提出がない場合は退会を勧告することとした。

さらに、当番に当たっている人が安易に欠席することがないように年間の活動回数を決定したほうがいいのではないかと意見があり、ひとつの目安とし

て年間 14 回を設定することとした。この数字の設定に当たって、通常の活動であれば、体調不良や急用など何回かの欠席があっても十分クリアできる数字とし、大きな負担にならないように配慮した。

今後の計画及び課題

1. ボランティアは平成 17 年 12 月には、合計約 60 名となっているが、温室担当のガイドボランティア

人数が減少しているので、新規募集を計画する。

2. 研修や懇親の機会を充実し、活動への意欲やボランティアとしてのマナーを向上させることが必要と思われる。

平成 17 年隠里溜池南側広場 (子ども花壇) 管理記録

磯部実・梶川修・高東朗・門村逸喜

はじめに

この広場花壇には、前号でも記述したように本年 2 月からパンジーを植栽展示し、引き続いて夏にはヒマワリ、秋にはコスモスを植栽展示したので、その結果を記録する。

パンジー

植栽区域 100 m²当たりワラ堆肥 120 袋 (20 l 入り)、FT 化成 4kg、カルエース 2kg を混入・耕耘した。前号で記録したように昨年の秋に播種した 24 品種のパンジーを 2 月 21 日～2 月 24 日まで、花壇に約 7,000 株 (カスケードなど周辺花壇も含む) 植栽した (栽培記録 26 号参照)。

4 月 14 日に、追肥としてペレックスを 100 m²当たり約 4kg 散布し、4 月 19 日には中耕をかねて除草を行った。病害虫は特に問題になるものは発生しなかった。

3 月下旬より開花数が徐々に増し、4 月中旬からゴールデンウィークには見ごろを向かえた (写真 1)。その後、まだパンジーの開花は続いたが、後に植栽展示するヒマワリの植え付け準備のため、5 月

19 日、21 日に抜き取った。

ヒマワリ

パンジーを撤去した後、植栽区域 100 m²当たりペレックス 15kg、カルエース 15kg を混入・耕耘し、畝はフラワーネット (一畝 20cm の 5 列) 用に約 1m とした。播種・植栽したヒマワリの品種は (株) サカタのタネより導入した高性分枝系の「ソラヤ」とわい性分枝系「マンチキン」の 2 品種である (表 1)。

5 月 7 日、8 日に春の植物公園祭りのイベントの一環として、入園者にヒマワリの種まき体験を実施し、約 100 人の参加者に 7.5 cm ビニールポット約 2,000 ポットに「ソラヤ」の種子を播種してもらい、苗を育て、植物公園でも、追加・補植用に約 1,000 ポットの苗を播種・育苗した。ヒマワリ「マンチキン」の種子は 5 月 18 日に同サイズのビニールポットに播種・育苗した。

ソラヤの苗は 6 月 1 日、4 日にフラワーネットを張りながら、40cm 間隔にちどり状に約 2,500 株定植した。定植時にヨトウムシ防除用にアディオン乳剤の土壌灌注又はオルトラン粒剤を土壌混入した。定植後にヨトウムシの被害があったので、補殺後欠損株は約 200 株程度順次補植した。マンチキンは 6 月 9 日に株間 30cm で約 300 株定植した。

本年は定植後晴天が続いたので、灌水に注意を要した。株の倒伏を防ぐため、ネットの上昇は 6 月



写真 1. パンジー花壇



写真 2. ヒマワリ花壇